

専修以外の基礎科目

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 semester	開講曜日・講時	平成30年度以前入学 者 読替先授業科目
人文統計学	統計学の基礎	2	木村 邦博	3	前期 水曜日 2講時	
人文統計学	推測統計と多変量解析 の基礎	2	小川 和孝	4	後期 水曜日 2講時	
人文情報処理	コンピュータを活用した データ処理と情報発信	2	湊 信吾	3	前期 金曜日 2講時	
人文情報処理	コンピュータを活用した データ処理と情報発信	2	湊 信吾	4	後期 金曜日 2講時	
英語演習	英文読解演習(1)	2	三枝 和彦	3	前期 火曜日 4講時	
英語演習	英文読解演習(2)	2	三枝 和彦	4	後期 火曜日 4講時	
高等英文解釈法	英文解釈の技法	2	佐藤 元樹	3	前期 金曜日 3講時	
高等英文解釈法	英文解釈の技法	2	佐藤 元樹	4	後期 金曜日 3講時	
英語論文作成法	Academic Writing I	2	PHILLIPS MAX	3	前期 水曜日 2講時	
英語論文作成法	Academic Writing II	2	PHILLIPS MAX	4	後期 水曜日 2講時	
ギリシャ語	ホメロス『オデュッセイ ア』第4巻講読	2	嶺岸 佑亮	3	前期 水曜日 4講時	
ギリシャ語	古典ギリシャ語入門 (1)	2	今井 誠二	3	前期 水曜日 5講時	
ギリシャ語	ホメロス『オデュッセイ ア』第5巻講読	2	嶺岸 佑亮	4	後期 水曜日 4講時	
ギリシャ語	古典ギリシャ語入門 (2)	2	今井 誠二	4	後期 水曜日 5講時	
ラテン語	ラテン語中級1	2	加藤 守通	3	前期 金曜日 2講時	
ラテン語	ラテン語初級1	2	加藤 守通	3	前期 金曜日 3講時	
ラテン語	ラテン語中級2	2	加藤 守通	4	後期 金曜日 2講時	
ラテン語	ラテン語初級2	2	宮崎 正美	4	後期 金曜日 3講時	
サンスクリット語	サンスクリット語基礎演 習I	2	笠松 直	3	前期 木曜日 3講時	
サンスクリット語	サンスクリット語基礎演 習II	2	渡辺 亮	4	後期 木曜日 3講時	
中国語	中国語中級作文	2	張 佩茹	3	前期 水曜日 2講時	

専修以外の基礎科目

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 semester	開講曜日・講時	平成30年度以前入学 者 読替先授業科目
中国語	中国語中級作文	2	張 佩茹	4	後期 水曜日 2講時	
朝鮮語	韓国語入門	2	権 来順	3	前期 水曜日 2講時	
朝鮮語	韓国語初級	2	権 来順	4	後期 水曜日 2講時	
イタリア語	イタリア語 上級	2	MARINUCCI LORENZ	3	前期 水曜日 4講時	
イタリア語	イタリア語 初級	2	MARINUCCI LORENZ	3	前期 木曜日 3講時	
イタリア語	イタリア語中級	2	MARINUCCI LORENZ	3	前期 木曜日 4講時	
イタリア語	イタリア語 上級	2	MARINUCCI LORENZ	4	後期 水曜日 4講時	
イタリア語	イタリア語 初級	2	MARINUCCI LORENZ	4	後期 木曜日 3講時	
イタリア語	イタリア語中級	2	MARINUCCI LORENZ	4	後期 木曜日 4講時	
専門中国語	中国当代文学を読む	2	張 佩茹	3	前期 火曜日 3講時	
専門中国語	中国当代文学を読む	2	張 佩茹	4	後期 火曜日 3講時	
専門ドイツ語	ドイツ語読解力の養成 とドイツ語基礎の徹底	2	松崎 裕人	4	後期 水曜日 4講時	
専門フランス語	時事フランス語	2	黒岩 卓	3	前期 月曜日 4講時	
専門フランス語	Expression française orale et écrite	2	MEVEL YANN ERIC	4	後期 水曜日 4講時	
漢文講読	漢文訓読入門	2	田島 花野	3	前期 金曜日 4講時	
漢文講読	漢文訓読入門	2	田島 花野	4	後期 金曜日 4講時	
人文社会科学特別講義	Occultism and Modernity	1	Henrik Bogdan	集中(3)	集中講義	

科目名：人文統計学／ Statistics

曜日・講時：前期 水曜日 2 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：木村 邦博

コード：LB33209, 科目ナンバリング：LHM-PRI201J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：統計学の基礎

2. Course Title (授業題目) : Elementary Statistics

3. 授業の目的と概要：統計学の基礎を学ぶ。

特に、データ収集・測定の考え方の基本を理解し、代表値や変動の測度の算出、探索的データ解析、クロス集計表など、記述統計学の手法を身につける。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : This course serves as an introductory course on elementary statistics for social data analysis, which should be useful for students majoring in humanities and social sciences. It covers various topics in descriptive statistics to help students understand the basics of measurement and data analysis, ranging from central tendency, measures of variation to crosstabulation.

5. 学修の到達目標：官庁統計や簡単な調査報告・論文を読めるようになるための基礎的な統計学について学ぶ。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : Students learn about elementary statistical methods for interpreting academic and governmental reports that contain statistics and graphs.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目の授業は Google Classroom (Meet を含む) を利用して実施します。
Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

1. データと測定(1)
2. データと測定(2)
3. 度数分布と比率(1)
4. 度数分布と比率(2)
5. 代表値と変動(1)
6. 代表値と変動(2)
7. グラフによるデータの表現(1)
8. グラフによるデータの表現(2)
9. クロス集計表(1)
10. クロス集計表(2)
11. 関連の測度(1)
12. 関連の測度(2)
13. 3変数間の関係を考える (因果関係、相関関係、疑似相関) (1)
14. 3変数間の関係を考える (因果関係、相関関係、疑似相関) (2)
15. まとめ

8. 成績評価方法：

レポート (10 回) による。

9. 教科書および参考書：

教科書：ボンシュテット&ノーキ (海野他訳) 『社会統計学—社会調査のためのデータ分析入門』 ハーベスト社

10. 授業時間外学習：教科書と補足資料 (Google Classroom で配付) で予習・復習をする。

教科書の各章末にある「一般の問題」のうち指定されたものについて、レポートを作成し、Google Classroom で提出する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

- (1) 人文統計学 (推測統計と多変量解析の基礎) とあわせて受講することが望ましい。
- (2) 社会調査士資格認定標準科目 C に対応。
- (3) 受講希望者は初回の授業までに必ず Google Classroom 上で授業計画・実施方法等を確認すること。

科目名：人文統計学／ Statistics

曜日・講時：後期 水曜日 2講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：小川 和孝

コード：LB43201, 科目ナンバリング：LHM-PRI201J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：推測統計と多変量解析の基礎
2. Course Title (授業題目)：Statistical Inference and Multivariate Analysis
3. 授業の目的と概要：社会調査に必要な統計学について学ぶ。特に、確率分布と統計的推測の考え方や、平均・比率の差の検定・推定、分散分析、相関分析、回帰分析などの手法について理解する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course covers statistics that are needed to analyze social surveys. Topics include statistical inference, significance test of means/proportions, analysis of variance, correlation, and regression.
5. 学修の到達目標：社会調査に必要な統計学について理解し、自ら適用できるようになる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students learn statistical methods that are needed to analyze social surveys.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. 統計的推測と仮説検定(1)：確率論の基礎
 2. 統計的推測と仮説検定(2)：統計的推定
 3. 統計的推測と仮説検定(3)：統計的検定の理論
 4. 2平均値の差の検定(1)
 5. 2平均値の差の検定(2)
 6. 複数平均値の差の検定(1)
 7. 複数平均値の差の検定(2)
 8. 2変数の関連の分析 (1)
 9. 2変数の関連の分析 (2)
 10. 2変数の関連の分析 (3)
 11. 回帰分析の基礎(1)
 12. 回帰分析の基礎(2)
 13. 重回帰分析(1)
 14. 重回帰分析(2)
 15. 重回帰分析 (3)
8. 成績評価方法：

各回のレポート課題 (70%)、およびコメントシート (30%)
9. 教科書および参考書：

[教科書] ボーンシュテット&ノーキ (海野他訳) 『社会統計学——社会調査のためのデータ分析入門』ハーベスト社
10. 授業時間外学習：教科書と配布資料で予習・復習をする。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

本授業は、社会調査士カリキュラムのD科目（「社会調査に必要な統計学に関する科目」）に該当する。

科目名：人文情報処理／ Information Processing for the Humanities

曜日・講時：前期 金曜日 2講時

Semester：3 単位数：2

担当教員：湊 信吾

コード：LB35204, 科目ナンバリング：LHM-HUI201J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：コンピュータを活用したデータ処理と情報発信

2. Course Title (授業題目)：Data processing and information providing with a computer

3. 授業の目的と概要：この授業ではExcelなどのアプリケーションやプログラミング言語を使用して、データの分析や可視化、情報発信を行えるようになるための基本的な情報処理技術を実習を通して習得してもらうことを目的としている。

以下の予定で講義および実習を行う。内容を変更する場合には授業中に連絡する。

- Excelでは表を使用したデータ処理について練習する。
- Rを使用したデータ解析の方法、グラフの表現について練習する。
- PowerPointを使用してプレゼンテーション用資料を作成する。
- インターネットで文書を公開するにはWebページを作成する。Webページを作るためのプログラミング言語としてHTML、CSSおよびJavaScriptの基本について学ぶ。
- SQLを使用したデータベースのプログラミングについて練習する。
- プログラミング言語Pythonを用いてプログラミングの練習を行う。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The objective of the course is to familiarise students with data processing, data visualization, web programming, and python programming.

- Spreadsheets and VBA programming with MS Excel
- Introduction to data processing with R
- Creating MS Powerpoint slides for presentation
- Introduction to relational database and SQL programming
- Web programming with HTML, CSS, JavaScript
- Introduction to Python programming

5. 学修の到達目標：• Excelを使用した実習により手軽にデータ分析を行うことができるようになる。

- Rを使用して基本的なデータ解析やグラフの作成ができるようになる。
- PowerPointのスライド作成を通して発表用の資料を簡単に作るようになる。
- Webページを作ることで情報を外部に公開する方法について理解を深める。
- SQLのプログラミングを使用し汎用的にデータベースを操作できるようになる。
- プログラミング言語Pythonを使って簡単なプログラムを作れるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：After completion of the course students are expected to be able to:

- Use Data processing and data visualization with MS Excel and R
- Create effective slides for presentation
- Understand the basic concepts of relational database and SQL programming
- Design web pages with HTML, CSS, JavaScript
- Create basic program in python

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. オリエンテーションとして授業の概要、評価の方法、テキストの閲覧方法、欠席時の対応について説明
2. Excel (表計算の基本)
3. Excel (グラフの作成)
4. Excel (テキストファイルの扱い方)
5. Excel (組み込み関数の応用)
6. Excel (VBAプログラミング)
7. PowerPointを使用したスライドの作成
8. Rを利用したデータ解析とグラフの作成
- 9～12. HTML、CSS、JavaScriptを使用したWebページの作成 (その1～その4)
13. SQLを使用したデータベースの操作
- 14、15. プログラミング言語Pythonを使用したプログラミング (基本とライブラリの利用)

授業は前半、実習を交えながら解説を行う。後半、課題に取り組んでもらう。

8. 成績評価方法：

毎回、レポートを提出してもらう。レポートの内容および提出日時により評価を決定する。

9. 教科書および参考書：

毎週、classroomの授業のところでテキストを公開する。参考書についてはテキストおよび授業で紹介する。

1 0. 授業時間外学習：＜事前学習＞毎週、インターネット経由でテキストを公開するのでそれを見て予習をしてもらいたい。また、テキスト中の語句でわからないところがあれば参考書などを利用して勉強しておいてほしい。
＜事後学習＞実習後、自分で用意したデータを使って再度試してみることで確実に授業で行ったことを身につけることができる。また、授業中に紹介した参考書で勉強することにより知識を深めることができる。

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：

連絡用のメールアドレスは classroom のストリームで公開する。テキストも classroom の授業のタブで資料として公開し、ストリームで公開したことを連絡するようにしている。

科目名：人文情報処理／ Information Processing for the Humanities

曜日・講時：後期 金曜日 2講時

Semester：4 単位数：2

担当教員：湊 信吾

コード：LB45205, 科目ナンバリング：LHM-HUI201J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：コンピュータを活用したデータ処理と情報発信

2. Course Title (授業題目)：Data processing and information providing with a computer

3. 授業の目的と概要：この授業ではExcelなどのアプリケーションやプログラミング言語を使用して、データの分析や可視化、情報発信を行えるようになるための基本的な情報処理技術を実習を通して習得してもらうことを目的としている。

以下の予定で講義および実習を行う。内容を変更する場合には授業中に連絡する。

- Excelでは表を使用したデータ処理について練習する。
- Rを使用したデータ解析の方法、グラフの表現について練習する。
- PowerPointを使用してプレゼンテーション用資料を作成する。
- インターネットで文書を公開するにはWebページを作成する。Webページを作るためのプログラミング言語としてHTML、CSSおよびJavaScriptの基本について学ぶ。
- SQLを使用したデータベースのプログラミングについて練習する。
- プログラミング言語Pythonを用いてプログラミングの練習を行う。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The objective of the course is to familiarise students with data processing, data visualization, web programming, and python programming.

- Spreadsheets and VBA programming with MS Excel
- Introduction to data processing with R
- Creating MS Powerpoint slides for presentation
- Introduction to relational database and SQL programming
- Web programming with HTML, CSS, JavaScript
- Introduction to Python programming

5. 学修の到達目標：• Excelを使用した実習により手軽にデータ分析を行うことができるようになる。

- Rを使用して基本的なデータ解析やグラフの作成ができるようになる。
- PowerPointのスライド作成を通して発表用の資料を簡単に作るようになる。
- Webページを作ることで情報を外部に公開する方法について理解を深める。
- SQLのプログラミングを使用し汎用的にデータベースを操作できるようになる。
- プログラミング言語Pythonを使って簡単なプログラムを作れるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：After completion of the course students are expected to be able to:

- Use Data processing and data visualization with MS Excel and R
- Create effective slides for presentation
- Understand the basic concepts of relational database and SQL programming
- Design web pages with HTML, CSS, JavaScript
- Create basic program in python

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. オリエンテーションとして授業の概要、評価の方法、テキストの閲覧方法、欠席時の対応について説明
2. Excel (表計算の基本)
3. Excel (グラフの作成)
4. Excel (テキストファイルの扱い方)
5. Excel (組み込み関数の応用)
6. Excel (VBAプログラミング)
7. PowerPointを使用したスライドの作成
8. Rを利用したデータ解析とグラフの作成
- 9～12. HTML、CSS、JavaScriptを使用したWebページの作成 (その1～その4)
13. SQLを使用したデータベースの操作
- 14、15. プログラミング言語Pythonを使用したプログラミング (基本とライブラリの利用)

授業は前半、実習を交えながら解説を行う。後半、課題に取り組んでもらう。

8. 成績評価方法：

毎回、レポートを提出してもらい、レポートの内容および提出日時により評価を決定する。

9. 教科書および参考書：

毎週、classroomの授業のところでテキストを公開する。参考書についてはテキストおよび授業で紹介する。

1 0. 授業時間外学習：＜事前学習＞毎週、インターネット経由でテキストを公開するのでそれを見て予習をしてもらいたい。また、テキスト中の語句でわからないところがあれば参考書などを利用して勉強しておいてほしい。
＜事後学習＞実習後、自分で用意したデータを使って再度試してみることで確実に授業で行ったことを身につけることができる。また、授業中に紹介した参考書で勉強することにより知識を深めることができる。

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、**実務・実践的授業**であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：

連絡用のメールアドレスは classroom のストリームで公開する。テキストも classroom の授業のタブで資料として公開し、ストリームで公開したことを連絡するようにしている。

科目名：英語演習／ Seminar in Practical English

曜日・講時：前期 火曜日 4 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：三枝 和彦

コード：LB32404, 科目ナンバリング：LHM-ENG201J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：英文読解演習（1）

2. Course Title (授業題目)：Seminar in reading skills in English (1)

3. 授業の目的と概要：この授業は、英語がどのように発展してきたかについての本を集中的に読むことで、語彙や表現の知識を増やし、英語の文章を正確に読む力を鍛え、英語という言語に関する知識を身につけることを目的としています。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course aims to increase the student's knowledge of vocabulary and expressions, to train them to read English passages correctly, and to give them a general account of the English language through intensive reading of a book on the development of the English language.

5. 学修の到達目標：(1) 語彙や表現の知識を増やす。

(2) 英文を正確に読むことができるようになる。

(3) 英語の発達に関する知識を身につける。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：1. Students will increase their knowledge of vocabulary and expressions.

2. Students will be able to read English texts correctly.

3. Students will gain knowledge of the development of the English language.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回 オリエンテーション

第2回 What is English (1)

第3回 Origins (1)

第4回 Origins (2)

第5回 Authorities (1)

第6回 Authorities (2)

第7回 Authorities (3)

第8回 Standards (1)

第9回 Standards (2)

第10回 Varieties (1)

第11回 Varieties (2)

第12回 Global Englishes (1)

第13回 Global Englishes (2)

第14回 Why do we care?

第15回 振り返りと試験

8. 成績評価方法：

授業への参加 (60%)、試験 (40%)

9. 教科書および参考書：

Simon Horobin, The English Language. A Very Short Introduction. Oxford UP, 2018. (各自、購入してください)

10. 授業時間外学習：必ず予習をすること。また、復習をして知識の定着を図ること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：英語演習／ Seminar in Practical English

曜日・講時：後期 火曜日 4 講時

Semester：4 単位数：2

担当教員：三枝 和彦

コード：LB42403, 科目ナンバリング：LHM-ENG201J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：英文読解演習（2）
2. Course Title (授業題目)：Seminar in reading skills in English (2)
3. 授業の目的と概要：この授業は、ジョージ・オーウェルの小説やエッセイを精読することで、語彙や表現の知識を増やし、英語の文章を正確に読む力を鍛えることを目的とします。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course aims to increase the student's knowledge of vocabulary and expressions and to train them to read English texts correctly through intensive reading of novels and essays written by George Orwell.
5. 学修の到達目標：(1) 語彙や表現の知識を増やす。
(2) 英文を正確に読むことができるようになる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：1. Students will increase their knowledge of vocabulary and expressions.
2. Students will be able to read English texts correctly.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
第1回 オリエンテーション
第2回 『動物農場』(1)
第3回 『動物農場』(2)
第4回 『動物農場』(3)
第5回 『1984』(1)
第6回 『1984』(2)
第7回 『1984』(3)
第8回 “Why I Write” (1)
第9回 “Why I Write” (2)
第10回 “Shooting an Elephant” (1)
第11回 “Shooting an Elephant” (2)
第12回 “Looking Back on the Spanish War” (1)
第13回 “Looking Back on the Spanish War” (2)
第14回 “Looking Back on the Spanish War” (3)
第15回 振り返りと試験
8. 成績評価方法：
授業への参加 (60%)、試験 (40%)
9. 教科書および参考書：
使用するテキストはデータを配付します。
10. 授業時間外学習：必ず予習をすること。また、復習をして知識の定着を図ること。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：高等英文解釈法／ Advanced English for Intensive Reading

曜日・講時：前期 金曜日 3 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：佐藤 元樹

コード：LB35305, 科目ナンバリング：LHM-ENG202J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：英文解釈の技法
2. Course Title (授業題目)：Advanced Reading Skills in English
3. 授業の目的と概要：様々な形式の多様なジャンルの英文テキストを読み、英語の読解力および批判的思考力を養成する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course is designed to develop reading and critical thinking skills by reading and interacting with a wide variety of reading genres in different formats.
5. 学修の到達目標：英文を正確に読み、パラグラフの要点を特定すること、事実と意見を区別すること、情報を分類することができるようになる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students can identify the main idea of a paragraph, recognize facts and opinions, and categorize information.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. オリエンテーション
 2. Sociology - What makes someone admirable? (1)
 3. Sociology - What makes someone admirable? (2)
 4. Behavioral Science - How do marketers get our attention? (1)
 5. Behavioral Science - How do marketers get our attention? (2)
 6. Developmental Psychology - What important lessons do we learn as young people? (1)
 7. Developmental Psychology - What important lessons do we learn as young people? (2)
 8. Science and Technology - How can science improve lives? (1)
 9. Science and Technology - How can science improve lives? (2)
 10. Nutritional Science - Should science influence what we eat? (1)
 11. Nutritional Science - Should science influence what we eat? (2)
 12. Education - Does school prepare you for work?
 13. Geology - Is discovery always a good thing?
 14. Engineering - Can failure lead to success?
 15. まとめ解説と学期末試験
8. 成績評価方法：

学期末試験および各 Unit の課題にもとづいて、総合的に評価する。
9. 教科書および参考書：

Daise, Debra and Charl Norloff, Q: Skills for Success Level 4 Reading and Writing 3rd edition, Oxford UP, 2019.
10. 授業時間外学習：授業で扱ったテキストを読み返し、テキストの設問に答える。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

辞書を持参すること。

科目名：高等英文解釈法／ Advanced English for Intensive Reading

曜日・講時：後期 金曜日 3講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：佐藤 元樹

コード：LB45305, 科目ナンバリング：LHM-ENG202J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：英文解釈の技法
2. Course Title (授業題目)：Advanced Reading Skills in English
3. 授業の目的と概要：様々な形式の多様なジャンルの英文テキストを読み、英語の読解力および批判的思考力を養成する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course is designed to develop reading and critical thinking skills by reading and interacting with a wide variety of reading genres in different formats.
5. 学修の到達目標：英文を正確に読み、要点と細部を区別すること、対比的な考えを判別すること、著者の意図を理解すること、推測して結論を出すことができる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students can distinguish main ideas from details, identify contrasting ideas, understand the author's intent, and make inferences.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. オリエンテーション
 2. Education - What is the value of learning a new language? (1)
 3. Education - What is the value of learning a new language? (2)
 4. Business - How is work changing? (1)
 5. Business - How is work changing? (2)
 6. Media Studies - How well does a picture illustrate the truth? (1)
 7. Media Studies - How well does a picture illustrate the truth? (2)
 8. International Relations - Why is global cooperation important? (1)
 9. International Relations - Why is global cooperation important? (2)
 10. Urban Planning - What makes a public place appealing? (1)
 11. Urban Planning - What makes a public place appealing? (2)
 12. Ecology - How can we turn trash into treasure?
 13. History - How do new discoveries and inventions change the world?
 14. Health Sciences - What affects people's energy levels?
 15. まとめ解説と学期末試験
8. 成績評価方法：

学期末試験および各 Unit の課題にもとづいて、総合的に評価する。
9. 教科書および参考書：

Caplan, Nigel and Scott Douglas, Q: Skills for Success Level 5 Reading and Writing 3rd edition, Oxford UP, 2019.
10. 授業時間外学習：授業で扱ったテキストを読み返し、テキストの設問に答える。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

辞書を持参すること。

科目名：英語論文作成法／ Creative Writing

曜日・講時：前期 水曜日 2講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：PHILLIPS MAX

コード：LB33210, 科目ナンバリング：LHM-ENG203E, 使用言語：英語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：Academic Writing I
2. Course Title (授業題目)：Academic Writing I
3. 授業の目的と概要：対面授業のみ

This course is an introduction to the academic writing process. Students will learn: a) correct format for writing essays, b) organization for different essay types, c) strategies for: pre-writing, revising and proofreading, and improving the readability of their writing and d) correct sentence and paragraph structures that meets the expectations of their target audience.

The content of lectures will be as listed (elsewhere), however you can expect to submit some writing every week, except for the first class and on workshop days.

NOTE about Distance Education classes vs. Traditional classes - due to the nature of distance education classes, I am developing 2 'streams' which are similar in content, but different in method of teaching. The rationale is that if classes were to begin traditionally (or vice versa) and then switch to the other, the transition would be seamless. As such, it's reasonable to expect some challenges in how classes are conducted. If you have any concerns (or suggestions for improvement), you can contact me at anytime via email and I will entertain your ideas - however I may not implement them, for various reasons.

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : This course is an introduction to the academic writing process. Students will learn: a) correct format for writing essays, b) organization for different essay types, c) strategies for: pre-writing, revising and proofreading, and improving the readability of their writing and d) correct sentence and paragraph structures that meets the expectations of their target audience.

The content of lectures will be as listed (elsewhere), however you can expect to submit some writing every week, except for the first class and on workshop days.

NOTE about Distance Education classes vs. Traditional classes - due to the nature of distance education classes, I am developing 2 'streams' which are similar in content, but different in method of teaching. The rationale is that if classes were to begin traditionally (or vice versa) and then switch to the other, the transition would be seamless. As such, it's reasonable to expect some challenges in how classes are conducted. If you have any concerns (or suggestions for improvement), you can contact me at anytime via email and I will entertain your ideas - however I may not implement them, for various reasons.

5. 学修の到達目標 : Students will learn that because English writing is a process, not a product (although the process leads to a product), organizational expectations must be met. The course helps students meet those expectations by teaching how to logically organize writing

6. Learning Goals (学修の到達目標) : Students will learn that because English writing is a process, not a product (although the process leads to a product), organizational expectations must be met. The course helps students meet those expectations by teaching how to logically organize writing.

7. 授業の内容・方法と進捗予定 :

- 1) Course Introduction; Hand-written & Types Formats; Plagiarism; Capitalization Rules
- 2) Essay 1 Assignment; Introduction to English Writing; Pre-writing Strategies
- 3) Basic Sentence Structure; Parallelism Rules
- 4) Writing an Outline; Basic Paragraph Structure
- 5) Basic Essay Structure
- 6) Introduction to Peer Review, Revision, and Proofreading
- 7) Workshop 1 (Rough Draft of Essay 1); Essay 2 Assignment
- 8) Introduction and Conclusion Writing; Essay 3 Assignment
- 9) Understanding Logic, Audience, Tone; Organization 1 - Compare/Contrast
- 10) Organization 2 - Chronological Order
- 11) Organization 3 - Cause/Effect
- 12) Workshop 2 (E2 one-on-one)
- 13) Effective Thesis Statement Writing; Gender Neutral Language
- 14) Workshop 3

15) Semester Exam

8. 成績評価方法：

Final grade to be determined by: homework, score earned on submitted essays, and workshop participation.

9. 教科書および参考書：

Course syllabus based on "Discoveries in Academic Writing," by Barbara Harris Leonhard and "Teaching Academic Writing" by Eli Hinkel.

10. 授業時間外学習： Attendance is mandatory for all classes. You will be automatically expelled if you have more than 2 unexcused absences. No auditors permitted.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：英語論文作成法／ Creative Writing

曜日・講時：後期 水曜日 2講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：PHILLIPS MAX

コード：LB43209, 科目ナンバリング：LHM-ENG203E, 使用言語：英語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：Academic Writing II

2. Course Title (授業題目)：Academic Writing II

3. 授業の目的と概要：This course is a continuation of AWI, therefore, the prerequisite for entering AWII is satisfactory completion of AWI. (Requests for a waiver must be made to the professor prior to admission to the course.) Student will study the research process and how to organize research into a cohesive, logically organized paper, with a special focus on proper format and citation of source material.

The class is a mix of lecture and 'in-class' assignments designed to help you THINK. Deep thinking about something you WILL do is far more difficult than simply putting a pen to paper and writing whatever comes to your mind (although that, too, is challenging - if you've never done it).

Assuming classes are conducted as 'distance education' type classes, you can expect a mix of pre-recorded lectures and live classes. [If classes are conducted traditionally (live and in a classroom) the contents will be similar, but naturally, the method of teaching will be different.

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Students will do original research and write a fully documented research paper.

5. 学修の到達目標：Students will do original research and write a fully documented research paper.

6. Learning Goals (学修の到達目標)：Students will do original research and write a fully documented research paper.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) Course Introduction; The Research Process
- 2) Choosing a Topic; Identifying Potential Resources
- 3) Gathering Source Material - Evaluating Sources
- 4) Note-Taking
- 5) Using the Internet for Research
- 6) Considering Organization
- 7) How to Organize Notes / Write Outline
- 8) Workshop 1 (Outline - rough draft)
- 9) Integrating Source Material; First Draft Writing
- 10) Understanding Citations; Documenting Sources In-text
- 11) Paper Format; Documenting Sources Post-text
- 12) Workshop 2 (rough draft of main body)
- 13) Writing Introduction and Conclusion for Research Papers
- 14) Writing Workshop 3 (rough draft of paper)
- 15) Abstract Writing

8. 成績評価方法：

Final grade to be determined by: research paper, and workshop participation.

9. 教科書および参考書：

Course syllabus based, in part, on: MLA Style Manual and Guide to Scholarly Publishing 3rd Edition.

10. 授業時間外学習：Attendance is mandatory for all classes. You will be automatically expelled from the course if you have more than 2 unexcused absences. No auditors.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：ギリシャ語／ Greek

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：嶺岸 佑亮

コード：LB33405, 科目ナンバリング：LHM-OFL201J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ホメロス『オデュッセイア』第 4 巻講読
2. Course Title (授業題目)：Reading the 4th Book of Homer's Odyssey
3. 授業の目的と概要： 授業の目的と概要：ホメロスの『オデュッセイア』は、古代ギリシア文学最古のテキストの一つです。この作品は、古代ギリシア人のものの見方や文化に対して決定的な影響を与えただけでなく、近現代に至るまでヨーロッパ世界に対して大きな影響を与え続けています。
本学は第 4 巻のはじめからギリシア語原典で読解します。受講者には、各回ごとに数行ずつ日本語に訳出してもらいます。その作業を通じて、ギリシア語の読解力を身に付けるとともに、西欧文化の源泉に直に触れることで文学、歴史、哲学等の人文学に対してより幅広い視座を獲得することを目指します。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)： Homer's Odyssey is one of the oldest text in der Greek literature. This epic had not only definitive influence on Greeks' view of things and their culture, but has so great influence on the Western civilization up to modern times.
In this seminar we are going to read the second Book of this Homeric great epic in its original. Students are expected to translate few verses from Greek into Japanese. Through that work we aim to gain the ability to read Greek text by oneself, and to gain the wide point of view to human science such as literature, history and philosophy by the direct contact with the origin of the Western civilization.
5. 学修の到達目標：・ホメロスの叙事詩を自力で訳すことが出来るようになる
・叙事詩特有の語形変化になれ、正しく分析することが出来るようになる
・辞書・文法書を活用することが出来るようになる
6. Learning Goals (学修の到達目標)：・We aim to gain the ability to translate Homer's epic into Japanese by oneself
・We aim to get accustomed to the special conjugation and declension of the epic and so to be able to analyse correctly
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - ・第 1 回：イントロダクション (演習の内容と方法、ホメロスの叙事詩について)
 - ・第 2 回：『オデュッセイア』第 4 巻読解 1～30 行
 - ・第 3 回：『オデュッセイア』第 4 巻読解 31～60 行
 - ・第 4 回：『オデュッセイア』第 4 巻読解 61～90 行
 - ・第 5 回：『オデュッセイア』第 4 巻読解 91～120 行
 - ・第 6 回：『オデュッセイア』第 4 巻読解 121～150 行
 - ・第 7 回：『オデュッセイア』第 4 巻読解 150～180 行
 - ・第 8 回：『オデュッセイア』第 4 巻読解 181～210 行
 - ・第 9 回：『オデュッセイア』第 4 巻読解 210～250 行
 - ・第 10 回：『オデュッセイア』第 4 巻読解 251～290 行
 - ・第 11 回：『オデュッセイア』第 4 巻読解 291～330 行
 - ・第 12 回：『オデュッセイア』第 4 巻読解 331～370 行
 - ・第 13 回：『オデュッセイア』第 4 巻読解 371～410 行
 - ・第 14 回：『オデュッセイア』第 4 巻読解 411～450 行
 - ・第 15 回：全体のまとめ
8. 成績評価方法：
出席および平常点 (毎回の訳読とその準備、文法的分析、討論への参加)
9. 教科書および参考書：
教科書および参考書：テキストは講師がコピーを配布します。
辞書は、Lidelle and Scott's Greel-English Lexicon, Oxford の abridged edition を使用します。
[Text will be prepared by lector. We use abridged edition of Lidelle and Scott's Greel-English Lexicon, Oxford]
10. 授業時間外学習：授業時間外学修：各回の予習として 5～15 行程度の予習が必要です。
[Students are required to prepare 5 to 15 verses for each class]
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：ギリシャ語／ Greek

曜日・講時：前期 水曜日 5 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：今井 誠二

コード：LB33502, 科目ナンバリング：LHM-OFL201J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：古典ギリシャ語入門（1）
2. Course Title (授業題目)：Introduction to Classical Greek (1)
3. 授業の目的と概要：古典ギリシャ語のアルファベットの学習から始めて、名詞、形容詞、動詞等の必要最小限の文法事項を習得する。基本的には教科書に沿って進めていくが、適宜順序を変える。重要な文法事項については、資料などを補いつつ解説する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：We shall learn the alphabet and the basics of nouns, adjectives, verbs etc. by using the textbook.
5. 学修の到達目標：古典ギリシア語の文法の基礎を習得し、簡単な文章を訳せるようになる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：To become able to translate plain sentences.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
"文字と発音、アクセント
第1・第2 変化名詞及び形容詞、定冠詞
ω 動詞：直説法能動相現在及び未来
ω 動詞：直説法能動相未完了過去及びアオリスト、不定詞を用いた間接話法
ω 動詞；直説法能動相第2アオリスト、結果文、時の表現
前接辞と後接辞、疑問代名詞と不定代名詞、動詞 ε ι μ ι と φ η μ ι、所有の与格
第3 変化名詞：子音幹、限定の対格及び与格
第3 変化名詞、母音融合を行う第1・第2 変化形容詞
第3 変化名詞：母音幹、関係代名詞
指示代名詞、強意代名詞 α υ τ ο ς
形容詞および副詞の比較、η δ ι ω ν の変化
母音融合動詞
流音・鼻音幹動詞の未来、人称代名詞
-υς -ε ι α -υ 型および -ης -ε ς 型の形容詞
π α ς, μ ε γ α ς, π ο λ υ ς の変化
μ ι 動詞：ι σ τ η μ ι と δ ι δ ω μ ι の直接法能動相現在・未完了過去・アオリスト
μ ι 動詞：τ ι θ η μ ι, ι η μ ι, ε ι μ ι, δ ε κ ν υ μ ι"
8. 成績評価方法：
出席 60%、毎回の授業の課題達成度 40%
9. 教科書および参考書：
水谷智洋著『古典ギリシャ語初歩』岩波書店 1990 年発行、3500 円+税
10. 授業時間外学習：語形変化を何度も書いて復習し、仕組みを理解すること。定期的に簡単な書き取りテストを行って復習がなされているかを点検する。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：ギリシャ語 / Greek

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：嶺岸 佑亮

コード：LB43406, 科目ナンバリング：LHM-OFL201J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ホメロス『オデュッセイア』第 5 巻講読
2. Course Title (授業題目)：Reading the 5th Book of Homer's Odyssey
3. 授業の目的と概要：授業の目的と概要：ホメロスの『オデュッセイア』は、古代ギリシア文学最古のテキストの一つです。この作品は、古代ギリシア人のものの見方や文化に対して決定的な影響を与えただけでなく、近現代に至るまでヨーロッパ世界に対して大きな影響を与え続けています。
本学は前期からの続きで、第 5 巻をギリシア語原典で読解する予定です。受講者には、毎回数行ずつ日本語に訳出してもらいます。その作業を通じて、ギリシア語の読解力を身に付けるとともに、西欧文化の源泉に直に触れることで文学、歴史、哲学等の人文学に対してより幅広い視座を獲得することを目指します。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Homer's Odyssey is one of the oldest text in der Greek literature. This epic had not only definitive influence on Greeks' view of things and their culture, but has so great influence on the Western civilization up to modern times.
In this seminar we are going to read the 5th Book of this Homeric great epic in its original. Students are expected to translate few verses from Greek into Japanese. Through that work we aim to gain the ability to read Greek text by oneself, and to gain the wide point of view to human science such as literature, history and philosophy by the direct contact with the origin of the Western civilization.
5. 学修の到達目標：・ホメロスの叙事詩を自力で訳すことが出来るようになる
・叙事詩特有の語形変化になれ、正しく分析することが出来るようになる
・辞書・文法書を活用することが出来るようになる
6. Learning Goals (学修の到達目標)：・We aim to gain the ability to translate Homer's epic into Japanese by oneself
・We aim to get accustomed to the special conjugation and declension of the epic and so to be able to analyse correctly
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - ・第 1 回：イントロダクション（演習の内容と方法、ホメロスの叙事詩について）
 - ・第 2 回：『オデュッセイア』第 5 巻読解 1～30 行
 - ・第 3 回：『オデュッセイア』第 5 巻読解 31～60 行
 - ・第 4 回：『オデュッセイア』第 5 巻読解 61～90 行
 - ・第 5 回：『オデュッセイア』第 5 巻読解 91～120 行
 - ・第 6 回：『オデュッセイア』第 5 巻読解 121～150 行
 - ・第 7 回：『オデュッセイア』第 5 巻読解 150～180 行
 - ・第 8 回：『オデュッセイア』第 5 巻読解 181～210 行
 - ・第 9 回：『オデュッセイア』第 5 巻読解 210～250 行
 - ・第 10 回：『オデュッセイア』第 5 巻読解 251～290 行
 - ・第 11 回：『オデュッセイア』第 5 巻読解 291～330 行
 - ・第 12 回：『オデュッセイア』第 5 巻読解 331～370 行
 - ・第 13 回：『オデュッセイア』第 5 巻読解 371～410 行
 - ・第 14 回：『オデュッセイア』第 5 巻読解 411～450 行
 - ・第 15 回：『オデュッセイア』第 5 巻読解 450～最後、全体のまとめ
8. 成績評価方法：
出席および平常点（毎回の訳読とその準備、文法的分析、討論への参加）
9. 教科書および参考書：
教科書および参考書：テキストは講師がコピーを配布します。
辞書は Lidelle and Scott's Greel-English Lexicon, Oxford の abridged edition を使用します。
[Text will be prepared by lector. We use abridged edition of Lidelle and Scott's Greel-English Lexicon, Oxford]
10. 授業時間外学習：各回の予習として 5～15 行程度の予習が必要です。
[Students are required to prepare 5 to 15 verses for each class]
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：ギリシャ語／ Greek

曜日・講時：後期 水曜日 5 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：今井 誠二

コード：LB43502, 科目ナンバリング：LHM-OFL201J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：古典ギリシャ語入門（2）

2. Course Title (授業題目)：Introduction to Classical Greek (2)

3. 授業の目的と概要：前期に引き続き、古典ギリシャ語の文法の初歩の学びを深める。基本的には教科書に沿って進めていくが、適宜順序を変える。重要な文法事項については資料を追加して解説する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：We shall continue to learn basics of the grammar by using the textbook.

5. 学修の到達目標：古典ギリシア語の文法の基礎を習得し、簡単な文章を訳せるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：To become able to translate plain sentences.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

ω 動詞の能動相現在・未来・第2アオリストの分詞、分詞の用法

ω 動詞の能動相アオリストの分詞、μ ι 動詞の能動相現在および第2アオリストの分詞

接続法能動相現在およびアオリスト、主文における接続法の用法、接続法を用いた条件文

希求法能動相現在・未来・アオリスト、主文における希求法の用法、目的文

希求法を用いた条件文、ο τ ι, ω ς によって導入される間接話法、話法転換時の動詞の法の変化

直接法中・受動相現在、直接法中・受動相未来、能動相欠如動詞、危惧・恐怖を表す文

直接法中・受動相未完了過去、直接法中・受動相第2アオリスト、再帰代名詞、所有代名詞、配慮・努力を表す文

直接法中・受動相アオリスト、事実と反する仮定の条件文、過去の仮定を表す文

接続法中・受動相現在、接続法中・受動相アオリスト、ε ω ς, π ρ ι ν の用法

希求法中・受動相現在、希求法中・受動相アオリスト・未来

受動相アオリストおよび未来、行為者を表す υ π ο + 属格、手段・方法の与格

能動相完了・過去完了・未来完了

中・受動相完了、過去完了、未来完了、行為者の与格

命令法：ω 動詞

命令法：μ ι 動詞

μ ι 動詞型の変化をする第2アオリスト、動形容詞、動詞の腫瘍部分

数詞

8. 成績評価方法：

出席 60%、毎回の授業の課題達成度 40%

9. 教科書および参考書：

水谷智洋著『古典ギリシャ語初歩』岩波書店 1990 年発行、3500 円+税

10. 授業時間外学習：語形変化を何度も書いて復習し、仕組みを理解すること。定期的に簡単な書き取りテストを行って復習がなされているかを点検する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：ラテン語／ Latin

曜日・講時：前期 金曜日 2 講時

Semester：3 単位数：2

担当教員：加藤 守通

コード：LB35205, 科目ナンバリング：LHM-OFL202J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ラテン語中級 1

2. Course Title (授業題目)：Intermediary Latin 1

3. 授業の目的と概要：西洋哲学の古典である、アウグスティヌス『告白』第 11 巻（前半部）を入念に読むことを通じて、ラテン語読解の能力を高めるとともに、著作の哲学的理解も深める。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：By reading Augustine's Confessions (Book 11), a philosophical classic on the theory of time, this course aims to enhance the ability of reading a Latin text.

5. 学修の到達目標：ラテン語文法をマスターする。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Mastery of Latin grammar.

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

1) イントロダクション

2) 第 1 章

3) 第 2 章

4) 第 3 章

5) 第 4 章

6) 第 5 章

7) 第 6 章

8) 第 7 章

9) 第 8 章

10) 第 9 章

11) 第 10 章

12) 第 11 章

13) 第 12 章

14) 第 13 章

15) 第 14 章

8. 成績評価方法：

出席及び平常点（授業中に当てられた箇所の翻訳など）による。

9. 教科書および参考書：

Confessions XI の電子版

1) The Latin Library：無料

<https://www.thelatinlibrary.com/augustine/conf11.shtml>

2) Kindle 版、英羅対訳、307 円、アウグスティヌスの全作品を収めている。推奨。

Delphi Collected Works of Saint Augustine (Illustrated) (Delphi Ancient Classics Book 68) (English Edition) 3

10. 授業時間外学習：事前に指示された箇所をあらかじめラテン語で読み、知らない単語を辞書で調べておくこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

進捗予定はあくまでも目安であり、参加者のラテン語能力に応じて変わる場合がある。

科目名：ラテン語／ Latin

曜日・講時：前期 金曜日 3講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：加藤 守通

コード：LB35306, 科目ナンバリング：LHM-OFL202J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ラテン語初級1
2. Course Title (授業題目)：Elementary Latin I
3. 授業の目的と概要：ラテン語文法の基本及び基礎的な語彙を習得する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Acquisition of basic knowledge of Latin grammar and vocabulary
5. 学修の到達目標：動詞の活用と名詞の格変化を習得する。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：To master the conjunctions of verbs and declensions of nouns
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1) イントロダクション、発音、動詞活用 (1)
 - 2) 名詞変化 (1)、語順
 - 3) 名詞変化 (2)
 - 4) 形容詞変化 (1)
 - 5) 動詞活用 (2)
 - 6) 前置詞、動詞活用 (3)
 - 7) 疑問文、動詞活用 (4)
 - 8) 名詞変化 (3)
 - 9) 動詞活用 (5)
 - 10) 人称・再帰代名詞
 - 11) 形容詞変化 (2)、動詞活用 (6)
 - 12) 動詞活用 (7)
 - 13) 指示代名詞
 - 14) 完了分詞、動詞活用 (8)
 - 15) 動詞活用 (9)
8. 成績評価方法：

出席及び平常点 (練習問題の出来具合など) による。
9. 教科書および参考書：

樋口勝彦・藤井昇『詳解ラテン文法』、研究社、2008年、第16課まで。授業の初日までに取得し、持参すること。
10. 授業時間外学習：授業内容を復習し、練習問題の解答を準備する。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：ラテン語／ Latin

曜日・講時：後期 金曜日 2 講時

Semester：4 単位数：2

担当教員：加藤 守通

コード：LB45206, 科目ナンバリング：LHM-OFL202J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ラテン語中級 2

2. Course Title (授業題目)：Intermediary Latin 2

3. 授業の目的と概要：西洋哲学の古典である、アウグスティヌス『告白』第 11 巻（後半部）を入念に読むことを通じて、ラテン語読解の能力を高めるとともに、著作の哲学的理解も深める。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：By reading Augustine's Confessions (Book 11), a philosophical classic on the theory of time, this course aims to enhance the ability of reading a Latin text.

5. 学修の到達目標：ラテン語文法をマスターする。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Mastery of Latin grammar

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

- 1) 第 1 5 章
- 2) 第 1 6 章
- 3) 第 1 7 章
- 4) 第 1 8 章
- 5) 第 1 9 章
- 6) 第 2 0 章
- 7) 第 2 1 章
- 8) 第 2 2 章
- 9) 第 2 3 章
- 1 0) 第 2 4 章
- 1 1) 第 2 5 章
- 1 2) 第 2 6 章
- 1 3) 第 2 7 章
- 1 4) 第 2 8-2 9 章
- 1 5) 第 3 0-3 1 章

8. 成績評価方法：

出席及び平常点（授業中に当てられた箇所の翻訳など）による。

9. 教科書および参考書：

Confessions XI の電子版

1) The Latin Library：無料

<https://www.thelatinlibrary.com/augustine/conf11.shtml>

2) Kindle 版、英羅対訳、307 円、アウグスティヌスの全作品を収めている。推奨。

Delphi Collected Works of Saint Augustine (Illustrated) (Delphi Ancient Classics Book 68) (English Edition) 3

1 0. 授業時間外学習：事前に指示された箇所をあらかじめラテン語で読み、知らない単語を辞書で調べておくこと。

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：

進捗予定はあくまでも目安であり、参加者のラテン語能力に応じて変わる場合がある。

科目名：ラテン語／ Latin

曜日・講時：後期 金曜日 3 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：宮崎 正美

コード：LB45306, 科目ナンバリング：LHM-OFL202J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ラテン語初級 2

2. Course Title (授業題目) : Elementary Latin 2

3. 授業の目的と概要：前期で学んだ内容に基づく、基本的なラテン語文法の習得を完成する。

この授業では、受講生が、ラテン語の基礎的文法の仕上げ目的とする。総合的な読解力のために、12 世紀中世キリスト教の三位一体論や 3 世紀の文献を対象とし、古文書学やキリスト教に関する基本的知識をもとにして、読解する。それにより、学術的研究にラテン語の果たす役割の一端を実感できるであろう。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : Completion of basic Latin grammar acquisition based on the course in the first semester.

The aim of this course is to help students develop entire basic Latin grammar. For general comprehension for reading, students will develop basic skills through a document of the third century and 12 century, using basic knowledge of paleography and the essence of Christianity. Through this exercise, students may be able to accept the role of Latin to academic research.

5. 学修の到達目標：(1) ラテン語動詞の多様な用法、文章構成を学ぶこと。

(2) ラテン語原典にふれて読解力がつくようになること。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : (1) The purpose of this course is to help students to learn a variety of uses of the Latin verb, syntax.

(2) Students will develop reading skills and better understand using Latin original texts.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第 1 回 イントロダクション動詞の態・時制・法の概略、現在幹を基にした不定法現在、命令法

第 2 回 動詞の「完了」「未完了」、動詞の時制の概観、未完了過去（直説法能動態）、未来（直説法能動態）、sum の未完了過去、未来

第 3 回 受動態人称語尾、形式受動態語尾（デポネンティア動詞）、命令法受動態

第 4 回 完了（直説法能動態）、完了幹、過去完了（直説法能動態）、未来完了（直説法能動態）

第 5 回 分詞（1） 分詞の種類と性格、性・数・格、現在分詞

第 6 回 分詞（2） 完了分詞、未来分詞、目的分詞

第 7 回 非人称動詞、不定法（現在、完了、未来）、動名詞

第 8 回 動形容詞、奪格別句

第 9 回 接続法（1） 接続法現在（能動態）、単文での用法、接続法の基本用法

第 10 回 接続法（2） 接続法現在（受動態）、接続法未完了過去（能動態・受動態）、接続法完了（能動態・受動態）、接続法過去完了（能動態・受動態）、

第 11 回 接続法（3） 時制の対応関係、間接話法（疑問文、命令文）、目的文

第 12 回 接続法（4） 程度文・結果文、条件文・譲歩文

第 13 回 原典講読①

第 14 回 原典講読②

第 15 回 原典講読③

8. 成績評価方法：

出席日数が総授業数の 2/3 以上の学生が評価の対象になります。

出席状況（3 分の 2 の出席を単位取得の最低条件とし、残り 3 分の 1 を全体の 40% に換算）、レポート・試験（60%）、に基づいて評価する。（ただし比重は 平均点、偏り、状況等により調整することがある。）

9. 教科書および参考書：

【教科書】*授業中に独自に作成したプリントを配布、使用する。

【参考書】『詳解ラテン文法（新装版）』 樋口勝彦・藤井昇 研究社 2019 年

『羅和辞典（改訂版）』 水谷智洋 研究社 2009 年

10. 授業時間外学習：指定したテキスト（プリント）の該当箇所を読んで、予習しておくこと。

テキストの練習問題を利用して、授業の内容を理解し、例文の文法解析をしておく

Students are required to prepare for the assigned part of the handouts. They also required to review each class using handouts and to analyze example sentences grammatical word by word

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

オンライン授業(Zoom)の場合に、インターネット接続と、対応するアプリケーションがインストール済みのパソコンを必要とします。

If we must use online system (e.g. Zoom), need to your own device with your own account.

連絡先：E-mail：paul-m@tohoku.ac.jp(◎を@に置き換えてください)

この講義は日本語で提供されます。

辞書は参考書としているが、受講のためには必要と考えてほしい。

Thi

科目名：サンスクリット語／ Sanskrit

曜日・講時：前期 木曜日 3 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：笠松 直

コード：LB34303, 科目ナンバリング：LHM-OFL203J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：サンスクリット語基礎演習 I

2. Course Title (授業題目) : Introduction to classical Sanskrit literature I

3. 授業の目的と概要：ランマンの『サンスクリット読本』をテキストとして平易なサンスクリット文の読解演習を行い、サンスクリット語文法・語彙の理解を深める。テキストの語彙集・注記のほか、ホイットニーの文法書を適宜参照しながら読み進める。インド古典文学の理解のため、随時、古代インド文化の概説を行う。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : This class aims to deepen understanding of Sanskrit grammar and vocabulary through reading texts in Lanman's A Sanskrit Reader. We will read as much as possible by referring to Whitney's Sanskrit Grammar as well as the textbook's glossary and explanatory notes. And then we outline ancient Indian culture for an understanding of classical Sanskrit literature.

5. 学修の到達目標：平易なサンスクリット語の文章を訳せるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : Students will be able to translate plain Sanskrit texts.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション

2. 『ナラ王物語』第 1 章 (ナラ王とダマヤンティーの生い立ち) 1-3

3. 『ナラ王物語』第 1 章 4-6

4. 『ナラ王物語』第 1 章 7-10

5. 『ナラ王物語』第 1 章 11-14

6. 『ナラ王物語』第 1 章 15-19

7. 『ナラ王物語』第 1 章 20-25

8. 『ナラ王物語』第 1 章 26-32

9. 『ナラ王物語』第 2 章 (婿選びの御触れ) 1-7

10. 『ナラ王物語』第 2 章 8-14

11. 『ナラ王物語』第 2 章 15-21

12. 『ナラ王物語』第 2 章 22-28

13. 『ナラ王物語』第 2 章 29-30, (ナラ王とダマヤンティーの対話) 1-6

14. 『ナラ王物語』第 3 章 7-14

15. 『ナラ王物語』第 3 章 15-22

8. 成績評価方法：

予習 (40%), 授業内容の理解度 (40%) および課題 (20%)

9. 教科書および参考書：

C. R. Lanman, A Sanskrit Reader, W. D. Whitney, Sanskrit Grammar

10. 授業時間外学習：個々の語形を文法的に解析したうえ、指定された部分を訳しておくこと。毎回の授業の復習に十分に時間をかけること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

サンスクリット初級の知識を有すること。冬セメスターのサンスクリット語・サンスクリット語基礎演習 II と合せて受講するのが望ましい。

科目名：サンスクリット語／ Sanskrit

曜日・講時：後期 木曜日 3講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：渡辺 亮

コード：LB44303, 科目ナンバリング：LHM-OFL203J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：サンスクリット語基礎演習 II

2. Course Title (授業題目)：Introduction to classical Sanskrit literature II

3. 授業の目的と概要：前期に引き続き、ランマンの『サンスクリット読本』をテキストとして読解演習を行い、サンスクリット語の文法・語彙の理解を深める。テキストの語彙集・注記ばかりでなく、ホイットニーの文法書を適宜参照しながら読み進める。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This class, continued from “Sanskrit (Introduction to classical Sanskrit literature I)”, aims to deepen understanding of Sanskrit grammar and vocabulary through reading texts in Lanman’s A Sanskrit Reader. We will read as much as possible by referring to Whitney’s Sanskrit Grammar as well as the textbook’s glossary and explanatory notes.

5. 学修の到達目標：平易なサンスクリット語の文章を訳せるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will be able to translate plain Sanskrit texts.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. インTRODダクション
2. 『ナラ王物語』第3章 23-25, 第4章 (ナラ王とダマヤンティーの対話) 1-5
3. 『ナラ王物語』第4章 6-13
4. 『ナラ王物語』第4章 14-22
5. 『ナラ王物語』第4章 23-31
6. 『ナラ王物語』第5章 (婿選びの儀式) 1-8
7. 『ナラ王物語』第5章 9-18
8. 『ナラ王物語』第5章 19-27
9. 『ナラ王物語』第5章 28-36
10. 『ナラ王物語』第5章 37-46
11. 『有益な教え (ヒト-バデーシャ)』INTRODUCTION, PROLOGUE I
12. 『有益な教え』PROLOGUE II
13. 『有益な教え』PROLOGUE II
14. 『有益な教え』「老いた虎と旅人」I
15. 『有益な教え』「老いた虎と旅人」II

8. 成績評価方法：

予習 (40%), 授業内容の理解度 (40%) および課題 (20%)

9. 教科書および参考書：

C. R. Lanman, A Sanskrit Reader, W. D. Whitney, Sanskrit Grammar

10. 授業時間外学習：個々の語形を文法的に解析したうえ、指定された部分を訳しておくこと。毎回の授業の復習に十分に時間をかけること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: “○”Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

サンスクリット初級の知識を有すること。夏セメスターのサンスクリット語・サンスクリット語基礎演習 I と合わせて受講するのが望ましい。

科目名：中国語／ Chinese

曜日・講時：前期 水曜日 2講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：張 佩茹

コード：LB33211, 科目ナンバリング：LHM-CHN201J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：中国語中級作文

2. Course Title (授業題目)：Intermediate Mandarin Chinese Writing

3. 授業の目的と概要：一年次で学習した中国語の語彙と基礎文法をベースに、使える表現を増やし、中級レベルの作文力を身につけることを目的とする。基礎文型の復習をしながら、身近な話題で中国語の作文を書く練習をする。中国語らしい表現を体得し、中国語での発信力を磨く。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course is designed for those students who have already completed the learning at the beginner's level and acquired the basic knowledge of Mandarin Chinese pronunciation and grammar. The purpose of this course is to help students improve their writing ability to reach the intermediate level. Along with reviewing basic sentence patterns, students practice writing on familiar topics in Chinese. Through this process, students will become familiar with natural Mandarin Chinese expressions and be able to express themselves better in Mandarin Chinese.

5. 学修の到達目標：身近な話題について、自分の考えを正確に中国語の文章で表現することができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will develop the ability to express their ideas accurately on familiar topics when they write in Mandarin Chinese.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

【授業内容・方法と進度予定】

<授業内容・方法>テーマに沿って、作文練習をする。

<進度予定>

前期

第1回 ガイダンス

第2回 “自我介绍”について

第3回 “我们的大学”について

第4回 “我的家庭”について

第5回 “我的家乡”について

第6回 復習(一)

第7回 “星期天”について

第8回 “我的爱好”について

第9回 “学习外语”について

第10回 “我最喜欢吃的菜”について

第11回 復習(二)

第12回 キャッチコピーについて

第13回 レシピの説明について

第14回 年中行事について

第15回 期末まとめ

8. 成績評価方法：

平常点：60% (主に課題)

期末試験：40%

9. 教科書および参考書：

<教科書>プリント配布

<参考書>『やさしくくわしい中国語文法の基礎 改訂新版』、守屋 宏則ら著、東方書店、2019年

10. 授業時間外学習：【授業時間外学修】

予習：テーマに関連する中国語の作文を読む。使ってみたい単語の用法を事前に調べておく。

復習：間違ったところを見直す。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：中国語／ Chinese

曜日・講時：後期 水曜日 2講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：張 佩茹

コード：LB43210, 科目ナンバリング：LHM-CHN201J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：中国語中級作文

2. Course Title (授業題目)：Intermediate Mandarin Chinese Writing

3. 授業の目的と概要：一年次で学習した中国語の語彙と基礎文法をベースに、使える表現を増やし、中級レベルの作文力を身につけることを目的とする。基礎文型の復習をしながら、身近な話題で中国語の作文を書く練習をする。中国語らしい表現を体得し、中国語での発信力を磨く。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course is designed for those students who have already completed the learning at the beginner's level and acquired the basic knowledge of Mandarin Chinese pronunciation and grammar. The purpose of this course is to help students improve their writing ability to reach the intermediate level. Along with reviewing basic sentence patterns, students practice writing on familiar topics in Chinese. Through this process, students will become familiar with natural Mandarin Chinese expressions and be able to express themselves better in Mandarin Chinese.

5. 学修の到達目標：身近な話題について、自分の考えを正確に中国語の文章で表現することができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will develop the ability to express their ideas accurately on familiar topics when they write in Mandarin Chinese.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

【授業内容・方法と進度予定】

<授業内容・方法>テーマに沿って、作文練習をする。

<進度予定>

後期

第1回 ガイダンス

第2回 “我的好朋友”について

第3回 “旅游”について

第4回 “打工”について

第5回 “买东西”について

第6回 復習(一)

第7回 “看电视”について

第8回 “手机”について

第9回 “时间管理”について

第10回 “留学”について

第11回 復習(二)

第12回 挨拶言葉・お祝いの言葉について

第13回 SNSの記事について

第14回 手紙・メールについて

第15回 期末まとめ

8. 成績評価方法：

平常点：60% (主に課題)

期末試験：40%

9. 教科書および参考書：

<教科書>プリント配布

<参考書>『やさしくくわしい中国語文法の基礎 改訂新版』、守屋 宏則ら著、東方書店、2019年

10. 授業時間外学習：【授業時間外学修】

予習：テーマに関連する中国語の作文を読む。使ってみたい単語の用法を事前に調べておく。

復習：間違ったところを見直す。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：朝鮮語／ Korean

曜日・講時：前期 水曜日 2 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：権 来順

コード：LB33212, 科目ナンバリング：LHM-KOR201J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：韓国語入門
2. Course Title (授業題目)：Korean for Beginners
3. 授業の目的と概要：韓国語（ハングル）に関する全体像を身につけ、韓国語の読み書きができることをめざす。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：To be familiar with the overall concept of Hangeul, with the aim of being able to read and write Hangeul characters.
5. 学修の到達目標：学習の入り口としてハングル文字の仕組みを理解し、韓国語への興味を持たせることを目的とする。特に日本語にない発音に重点を置き、正確な韓国語の発音を練習する。韓国の文化、風習などの視聴覚資料を使い、基本文法と会話を学ぶ。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：To understand the structure of Hangeul characters as an introduction to learning Korean, so as to draw interest in the Korean language. In particular, to focus on pronunciations not found in the Japanese language, and to practise accurate Korean pronunciation. To learn basic grammar and conversation through the use of audio-visual themes such as Korean culture and customs.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 第1回：イントロダクション：授業の全般的説明、学修方法などについてガイダンスを行う
 - 第2回：韓国語の基本母音と子音に関して、6個の基本母音と5個の子音【平音】の組み合わせ
 - 第3回：韓国語の基本母音と子音に関して、4個の基本母音と5個の子音【平音】の組み合わせ
 - 第4回：韓国語の基本母音と子音に関して、10個の基本母音と4個の子音【激音】の組み合わせ
 - 第5回：韓国語の基本母音と子音に関して、基本母音10個と5個の子音【濃音】の組み合わせ
 - 第6回：11個の複合母音の学習
 - 第7回：一つ文字終声(パッチム)→連音化, 流音化, 有声音化の学習
 - 第8回：二つ文字終声(パッチム)→激音化, 濃音化, 鼻音化の学習、日本語のハングル(韓国語)表記練習
 - 第9回：助詞「～は」と「～です」の表現→「あなたはどこの国の人ですか」など、相手の国籍の尋ねや答え方、自己紹介
 - 第10回：助詞「～を」を用いて「名詞+です」、「名詞+ですか」、「名詞+ではない」の文型を練習
 - 第11回：指示表現と所有表現の学習
 - 第12回：助詞「～を」と動詞の丁寧表現、「～ます、～ています」の学習
 - 第13回：助詞「～に、～も」を用いて位置名詞を学習場所や方向など、位置を表す表現を学び、道や場所を尋ねる練習をする
 - 第14回：助詞「～で」、動詞の否定形を練習
 - 第15回：総まとめと試験
8. 成績評価方法：

期末筆記試験 30%、小テスト 20%、平常点(授業態度の積極性)50%によって評価する。
9. 教科書および参考書：

『パルン韓国語』朝日出版社、権来順外4人著、2019年、ISBN：978-4-255-55663-5
10. 授業時間外学習：毎回の学習した内容を復習し次の授業に生かすために、新しい語彙や単語の単語帳を作ること。Students to prepare a vocabulary book comprising new vocabulary and words, for reviewing and use in future classes the new vocabulary learnt.
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：朝鮮語／ Korean

曜日・講時：後期 水曜日 2 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：権 来順

コード：LB43211, 科目ナンバリング：LHM-KOR201J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：韓国語初級
2. Course Title (授業題目)：Elementary Korean
3. 授業の目的と概要：韓国語の読解力と簡単な生活会話をめざす。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：To be able to comprehend Korean text and carry out simple everyday conversation.
5. 学修の到達目標：日常生活に必要な語彙や表現力を高め、コミュニケーション能力を養う。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：To improve vocabulary and expressions necessary for everyday life, and to enhance communication skills.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 第 1 回：イントロダクション
 - 第 2 回：現在形の用言活用 1 (規則活用)
 - 第 3 回：現在形の用言活用 II (規則活用)
 - 第 4 回：現在形の用言活用 (変則活用)
 - 第 5 回：固有語数詞、時間、買い物、値段などの表現
 - 第 6 回：過去形の用言活用 1 (規則活用)
 - 第 7 回：過去形の用言活用 II (規則活用)
 - 第 8 回：過去形の用言活用 (変則活用)
 - 第 9 回：願望を表す表現
 - 第 10 回：意志を表す表現
 - 第 11 回：目的を表す表現
 - 第 12 回：格式体敬語表現
 - 第 13 回：非格式体敬語表現
 - 第 14 回：意向・意見・勧誘の表現
 - 第 15 回：総まとめと試験
8. 成績評価方法：

期末筆記試験 30%、小テスト 20%、平常点(授業態度の積極性)50%によって評価する。
9. 教科書および参考書：

『パルン韓国語』朝日出版社、権来順外 4 人著、2019 年、ISBN：978-4-255-55663-5
10. 授業時間外学習：毎回の学習した内容を復習し次の授業に生かすために、新しい語彙や単語の単語帳を作ること。

Students to prepare a vocabulary book comprising new vocabulary and words, for reviewing and use in future classes the new vocabulary learnt.
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：イタリア語／ Italian

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：MARINUCCI LORENZ

コード：LB33406, 科目ナンバリング：LHM-OFL204J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：イタリア語 上級
2. Course Title (授業題目)：Advanced Italian
3. 授業の目的と概要：文法の復習を一層広げながら、イタリア語の積極的な使い方を、授業時間以外の私立的な使用を支配する方法や刺激を与えること。ますます複雑な会話や作文によって、自分の趣味、意見、研究的な興味もイタリア語で表現できるようになること。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：As the grammar and vocabulary of the students is further widened, the course will give them ways and stimuli to keep learning Italian outside of the classroom time. Through increasingly complex conversation and writing assignments, the students will become able to discuss about their hobbies, their ideas, and their academic interests.
5. 学修の到達目標：学んできたイタリア語文法を駆使し、さらに高度な読解、翻訳、会話、聞き取りの能力を伸ばし、音楽と映画によってもイタリア文化に関しても学んでいく。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：By fully using the grammatical competences acquired until now, the students will approach even more difficult texts, translations, conversation and listening exercises, while approaching Italian culture also through music and movies
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. 等級テスト
 2. 会話と読解の練習。
 3. 小テストと直接法未来形。
 4. 進行動詞と gerundio の使用
 5. 会話と読解の練習。
 6. 曲の聞き取り、歌詞分析
 7. 翻訳の小テスト
 8. passato remoto の過去形
 9. 会話と読解の練習。
 10. 動詞文法のまとめ
 11. 作文・自分の趣味
 12. イタリア語での映画
 13. 映画でまとめた文法・単語。
 14. 聞き取り練習とテストの準備。
8. 成績評価方法：

クラスでの積極的な参加、学期末試験
9. 教科書および参考書：

イタリア語の ABC[改訂版]《CD 付》 長神 悟、プリントアウト、音楽、映画
10. 授業時間外学習：無し
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：イタリア語 / Italian

曜日・講時：前期 木曜日 3 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：MARINUCCI LORENZ

コード：LB34304, 科目ナンバリング：LHM-OFL204J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：イタリア語 初級
2. Course Title (授業題目)：Italian (Beginner)
3. 授業の目的と概要：日常的な表現と主題から、イタリア語の発音や基礎的な文法が紹介される。名詞の性や数、冠詞、動詞の文法（現在・過去）、代名詞をつかえるようになりながら、会話、団体ゲーム簡単な作文によって練習される。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The course aims at offering a solid basis of the Italian language, beginning from its phonetics and fundamental grammar. As the students will become familiar with names, their number and gender, articles, verb grammar (present and past) and pronouns, the study will progress through conversation, games and the production of simple texts.
5. 学修の到達目標：授業の目標は基礎的なイタリア語の適用である。日常的な会話に使えるような表現の会得して、簡単な読解も紹介される。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：The aim of the course is the correct application of the basics of Italian language. We will focus on apprehending expressions used in everyday context, but beginner level reading comprehension will also be included.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. 授業紹介・挨拶から
 3. 冠詞と名詞。
 4. 形容詞の二種類
 5. Essere
 6. Avere
 7. 規則動詞入門
 8. 不規則動詞入門
 9. 数字、時間、日付
 10. 中間テスト
 11. 過去入門
 12. 副詞の種類
 13. 疑問詞。
 14. 小テストと復習。
 15. 期末テストとまとめ。
8. 成績評価方法：

クラスでの積極的な参加、学期末試験
9. 教科書および参考書：

イタリア語の ABC [改訂版] 《CD 付》 長神 悟、プリントアウト
10. 授業時間外学習：無し
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：イタリア語／ Italian

曜日・講時：前期 木曜日 4 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：MARINUCCI LORENZ

コード：LB34402, 科目ナンバリング：LHM-OFL204J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：イタリア語中級

2. Course Title (授業題目)：Italian Intermediate

3. 授業の目的と概要：今まで会得した文法と会話の基礎にさらに建てながら、新しい文法を紹介し、単語を広げる目的である。動詞の文法で進歩しながら、イタリア文化や現代について会話する、そして自分の趣味や大学専門に関する会話や作文させる。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Building on the basis hitherto acquired, the course will introduce new grammar and widen the vocabulary of the students. We will progress with verbal grammar, discuss on basic topics relative to Italian culture and its news, and there will be spoken and written exercises relative to the student's interests and field of study.

5. 学修の到達目標：以前の基礎を強化し、自己表現の上に、イタリア語の勉強を自分の興味や趣味に繋がれる方法を提案する目的とする。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The course aims at strengthening the grammatical basis, and to offer to the students different ways of connecting the study of Italian to their interests, in order for them to begin expressing themselves.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 紹介、復習テスト
2. 過去と将来 直接法近過去その一
3. 旅行の単語・方向と前置詞
4. Potere 不規則動詞の直接法現在形とその使い方。
5. Venire 不規則動詞の直接法現在形。
6. 自分の趣味・読解と作文
7. 小テストと gerundio
8. 非人称動詞。
9. Volere と Vorrei (条件法現在)
10. Potere と Sapere と riuscire
11. 近過去と半過去
12. 小テストと会話の練習。
13. 近過去と半過去 2
14. 作文の練習。
15. 期末テストとまとめ。

8. 成績評価方法：

クラスでの積極的な参加、学期末試験

9. 教科書および参考書：

イタリア語の ABC[改訂版]《CD 付》 長神 悟、プリントアウト

10. 授業時間外学習：無し

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：イタリア語／ Italian

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：MARINUCCI LORENZ

コード：LB43407, 科目ナンバリング：LHM-OFL204J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：イタリア語 上級
2. Course Title (授業題目)：Advanced Italian
3. 授業の目的と概要：文法の復習を一層広げながら、イタリア語の積極的な使い方を、授業時間以外の私立的な使用を支配する方法や刺激を与えること。ますます複雑な会話や作文によって、自分の趣味、意見、研究的な興味もイタリア語で表現できるようになること。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：As the grammar and vocabulary of the students is further widened, the course will give them ways and stimuli to keep learning Italian outside of the classroom time. Through increasingly complex conversation and writing assignments, the students will become able to discuss about their hobbies, their ideas, and their academic interests.
5. 学修の到達目標：学んできたイタリア語文法を駆使し、さらに高度な読解、翻訳、会話、聞き取りの能力を伸ばし、音楽と映画によってもイタリア文化に関しても学んでいく。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：By fully using the grammatical competences acquired until now, the students will approach even more difficult texts, translations, conversation and listening exercises, while approaching Italian culture also through music and movies
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. 等級テスト
 2. 会話と読解の練習。
 3. 小テストと直接法未来形。
 4. 進行動詞と gerundio の使用
 5. 会話と読解の練習。
 6. 曲の聞き取り、歌詞分析
 7. 翻訳の小テスト
 8. passato remoto の過去形
 9. 会話と読解の練習。
 10. 動詞文法のまとめ
 11. 作文・自分の趣味
 12. イタリア語での映画
 13. 映画でまとめた文法・単語。
 14. 聞き取り練習とテストの準備。
8. 成績評価方法：

クラスでの積極的な参加、学期末試験
9. 教科書および参考書：

イタリア語の ABC[改訂版]《CD 付》 長神 悟、プリントアウト、音楽、映画
10. 授業時間外学習：無し
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：イタリア語 / Italian

曜日・講時：後期 木曜日 3 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：MARINUCCI LORENZ

コード：LB44304, 科目ナンバリング：LHM-0FL204J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：イタリア語 初級
2. Course Title (授業題目)：Italian (Beginner)
3. 授業の目的と概要：日常的な表現と主題から、イタリア語の発音や基礎的な文法が紹介される。名詞の性や数、冠詞、動詞の文法（現在・過去）、代名詞をつかえるようになりながら、会話、団体ゲーム簡単な作文によって練習される。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The course aims at offering a solid basis of the Italian language, beginning from its phonetics and fundamental grammar. As the students will become familiar with names, their number and gender, articles, verb grammar (present and past) and pronouns, the study will progress through conversation, games and the production of simple texts.
5. 学修の到達目標：授業の目標は基礎的なイタリア語の適用である。日常的な会話に使えるような表現の会得して、簡単な読解も紹介される。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：The aim of the course is the correct application of the basics of Italian language. We will focus on apprehending expressions used in everyday context, but beginner level reading comprehension will also be included.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. 授業紹介・挨拶から
 3. 冠詞と名詞。
 4. 形容詞の二種類
 5. Essere
 6. Avere
 7. 規則動詞入門
 8. 不規則動詞入門
 9. 数字、時間、日付
 10. 中間テスト
 11. 過去入門
 12. 副詞の種類
 13. 疑問詞。
 14. 小テストと復習。
 15. 期末テストとまとめ。
8. 成績評価方法：

クラスでの積極的な参加、学期末試験
9. 教科書および参考書：

イタリア語の ABC [改訂版] 《CD 付》 長神 悟、プリントアウト
10. 授業時間外学習：無し
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：イタリア語／ Italian

曜日・講時：後期 木曜日 4 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：MARINUCCI LORENZ

コード：LB44402, 科目ナンバリング：LHM-OFL204J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：イタリア語中級

2. Course Title (授業題目)：Italian Intermediate

3. 授業の目的と概要：今まで会得した文法と会話の基礎にさらに建てながら、新しい文法を紹介し、単語を広げる目的である。動詞の文法で進歩しながら、イタリア文化や現代について会話する、そして自分の趣味や大学専門に関する会話や作文させる。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Building on the basis hitherto acquired, the course will introduce new grammar and widen the vocabulary of the students. We will progress with verbal grammar, discuss on basic topics relative to Italian culture and its news, and there will be spoken and written exercises relative to the student's interests and field of study.

5. 学修の到達目標：以前の基礎を強化し、自己表現の上に、イタリア語の勉強を自分の興味や趣味に繋がれる方法を提案する目的とする。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The course aims at strengthening the grammatical basis, and to offer to the students different ways of connecting the study of Italian to their interests, in order for them to begin expressing themselves.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 紹介、復習テスト
2. 過去と将来 直接法近過去その一
3. 旅行の単語・方向と前置詞
4. Potere 不規則動詞の直接法現在形とその使い方。
5. Venire 不規則動詞の直接法現在形。
6. 自分の趣味・読解と作文
7. 小テストと gerundio
8. 非人称動詞。
9. Volere と Vorrei (条件法現在)
10. Potere と Sapere と riuscire
11. 近過去と半過去
12. 小テストと会話の練習。
13. 近過去と半過去 2
14. 作文の練習。
15. 期末テストとまとめ。

8. 成績評価方法：

クラスでの積極的な参加、学期末試験

9. 教科書および参考書：

イタリア語の ABC[改訂版]《CD 付》 長神 悟、プリントアウト

10. 授業時間外学習：無し

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：専門中国語／ Advanced Chinese

曜日・講時：前期 火曜日 3 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：張 佩茹

コード：LB32306, 科目ナンバリング：LHM-CHN202J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：中国当代文学を読む
2. Course Title (授業題目) : Selected Readings of Contemporary Chinese Literature
3. 授業の目的と概要：この授業では、ノーベル文学賞の受賞作家である莫言氏のエッセイや旅行記、講演内容より抜粋された文章を精読し、現代中国語の読解力を鍛えるとともに、中国の社会や文化について知見を深める。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : In this course, reading materials are selected from the essays, travel journals and speeches of the Nobel Prize winner Mo Yan. These materials will be read in details in order to provide students with an opportunity to improve their reading comprehension of modern Mandarin Chinese as well as gain necessary knowledge about the society and culture of China.
5. 学修の到達目標：現代中国語の文学作品を正確に読み解き、内容にかかわる社会的・文化的背景を調べる力を身につける。
6. Learning Goals (学修の到達目標) : Students will develop the ability to read modern Chinese literary works with accuracy and learn how to find necessary information about the social or cultural backgrounds of these works.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
＜授業内容・方法＞受講生が指定された箇所をあらかじめ和訳したうえで授業に臨む。授業では意味の確認のほか、内容についても検討する。
＜進度予定＞
第1回 ガイダンス
第2回 〈陪考一日〉 1
第3回 〈陪考一日〉 2
第4回 〈爷爷的故事〉 1
第5回 〈爷爷的故事〉 2
第6回 〈从照相说起〉 1
第7回 〈从照相说起〉 2
第8回 〈我的老师〉 1
第9回 〈我的老师〉 2
第10回 〈童年读书〉 1
第11回 〈童年读书〉 2
第12回 〈谈鲁迅杂感〉 1
第13回 〈谈鲁迅杂感〉 2
第14回 〈杂谈读书〉
第15回 期末試験
8. 成績評価方法：
和訳課題：60%
期末試験：40%
9. 教科書および参考書：
＜教科書＞プリント配布。
＜参考書＞『中国文化事典』中国文化事典編集委員会、丸善出版、2017年
10. 授業時間外学習：予習：辞書などで調べて、指定された箇所の和訳をする。翻訳の際に感じた疑問点を書きとめる。復習：プリントの内容を読み返し、正確に理解できたかを確認する。
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：

科目名：専門中国語／ Advanced Chinese

曜日・講時：後期 火曜日 3 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：張 佩茹

コード：LB42304, 科目ナンバリング：LHM-CHN202J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：中国当代文学を読む
2. Course Title (授業題目) : Selected Readings of Contemporary Chinese Literature
3. 授業の目的と概要：この授業では、ノーベル文学賞の受賞作家である莫言氏のエッセイや旅行記、講演内容より抜粋された文章を精読し、現代中国語の読解力を鍛えるとともに、中国の社会や文化について知見を深める。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : In this course, reading materials are selected from the essays, travel journals and speeches of the Nobel Prize winner Mo Yan. These materials will be read in details in order to provide students with an opportunity to improve their reading comprehension of modern Mandarin Chinese as well as gain necessary knowledge about the society and culture of China.
5. 学修の到達目標：現代中国語の文学作品を正確に読み解き、内容にかかわる社会的・文化的背景を調べる力を身につける。
6. Learning Goals (学修の到達目標) : Students will develop the ability to read modern Chinese literary works with accuracy and learn how to find necessary information about the social or cultural backgrounds of these works.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
＜授業内容・方法＞受講生が指定された箇所をあらかじめ和訳したうえで授業に臨む。授業では意味の確認のほか、内容についても検討する。
＜進度予定＞
第1回 ガイダンス
第2回 〈漫长的文学梦〉 1
第3回 〈漫长的文学梦〉 2
第4回 〈马〉 1
第5回 〈马〉 2
第6回 〈另一种相遇〉 1
第7回 〈另一种相遇〉 2
第8回 〈出长沙〉 1
第9回 〈出长沙〉 2
第10回 〈北海道的人〉 1
第11回 〈北海道的人〉 2
第12回 〈小说的韵味〉 1
第13回 〈小说的韵味〉 2
第14回 〈用耳朵阅读〉
第15回 期末試験
8. 成績評価方法：
和訳課題：60%
期末試験：40%
9. 教科書および参考書：
＜教科書＞プリント配布。
＜参考書＞『中国文化事典』中国文化事典編集委員会、丸善出版、2017年
10. 授業時間外学習：予習：辞書などで調べて、指定された箇所の和訳をする。翻訳の際に感じた疑問点を書きとめる。復習：プリントの内容を読み返し、正確に理解できたかを確認する。
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：

科目名：専門ドイツ語／ Advanced German

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：松崎 裕人

コード：LB43408, 科目ナンバリング：LHM-GER201J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ドイツ語読解力の養成とドイツ語基礎の徹底
2. Course Title (授業題目) : Deutsch besser lesen und verstehen
3. 授業の目的と概要：ドイツ語散文を読みながら、ドイツ語文読解力の養成をはかる。
併せて、ドイツ語辞典や補助教材の使用法に習熟する。
その作業を通して、ドイツ語基礎を確かなものとする。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : Lesen der erzählerischen Schriften.
Verwendung der wichtigen Materialien.
Ganz Erlernen elementaren Deutsches.
5. 学修の到達目標：中級ドイツ語の文献を読解することができる。
独和辞典や学習独辞典・特殊辞典を効果的に使うことができる。
6. Learning Goals (学修の到達目標) : Sie können Mitteldeutsch gut verstehen.
Sie können verschiedene Lexika und Materialien richtig benutzen.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1 ガイダンス
 - 2 講読 (1) およびビューチャーケンデについて (1)
 - 3 講読 (2) およびビューチャーケンデについて (2)
 - 4 講読 (3)
 - 5 講読 (4) および独辞典の活用 (1)
 - 6 講読 (5) および独辞典の活用 (2)
 - 7 講読 (6)
 - 8 講読 (7) とまとめ (1)
 - 9 講読 (8) および事典の活用 (1)
 - 10 講読 (9) および事典の活用 (2)
 - 11 講読 (10)
 - 12 講読 (11) およびランデスクンデについて (1)
 - 13 講読 (12) およびランデスクンデについて (2)
 - 14 講読 (13)
 - 15 講読 (14) とまとめ (2)
8. 成績評価方法：
小テスト (不規則動詞の単語テスト) 12 回 (50%)、授業での発表 (50%)
9. 教科書および参考書：
テキスト：
Elias Canetti: Die Stimmen von Marrakesch (Fischer Tb, 2007 [28. Aufl.])
より抜粋 (プリント配布)
それ以外のテキストや参考文献については適宜紹介します。
10. 授業時間外学習：毎回、テキスト 1 頁から 1 頁半ほどの十分な準備が必要です。その段階で不明な箇所を洗い出し、それを授業時に確認し、復習によって確かなものとしてください。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicate the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：
オフィスアワー等については開講時に案内します。
授業形態の変更により進度や成績評価方法に変更が生じ得ることがあります。
連絡先：hiroto.matsuzaki.c4@tohoku.ac.jp
(◎を@に換えてください。)

科目名：専門フランス語／ Advanced French

曜日・講時：前期 月曜日 4 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：黒岩 卓

コード：LB31405, 科目ナンバリング：LHM-FRE201J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：時事フランス語
2. Course Title (授業題目)：Current French
3. 授業の目的と概要：初級文法を修了した学習者を主な対象として、幅広い内容を扱ったフランス語を読む。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Read French texts about various contemporary issues.
5. 学修の到達目標：各学習者が自分の興味に応じて、さまざまなフランス語を自律的に読めるようになる。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Each learner can read various French texts according to his/her interests.
7. 授業の内容・方法と進度予定：

(下に記した教科書をベースとします。学習者のレベルに応じて他の文章も用いることがあります。以下の予定は変更されることがあります)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 1・2 課
- 第3回 3・4 課
- 第4回 5・6 課
- 第5回 7・8 課
- 第6回 9・10 課
- 第7回 11・12 課
- 第8回 13・14 課
- 第9回 15・16 課
- 第10回 17・18 課
- 第11回 19・20 課
- 第12回 テキスト講読 (1)
- 第13回 テキスト講読 (2)
- 第14回 テキスト講読 (3)
- 第15回 テキスト講読 (4)

8. 成績評価方法：

出席点 (100%)

9. 教科書および参考書：

石井洋二郎、ミシェル・サガズ『A la page 2023』、朝日出版社、2023.

10. 授業時間外学習：出席の際の訳読も評価の対象となりますので、毎回の綿密な予習が必須となります。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：専門フランス語／ Advanced French

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：MEVEL YANN ERIC

コード：LB43409, 科目ナンバリング：LHM-FRE201F, 使用言語：英語以外の外国語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：Expression française orale et écrite
2. Course Title (授業題目)：Expression française orale et écrite
3. 授業の目的と概要：Le cours prendra plusieurs formes. Il permettra :
 - la lecture de divers types de textes
 - l'audition de documents sonores
 - une analyse de documents visuels
 - des discussions sur des sujets de société
 - des jeux de rôles
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Le cours prendra plusieurs formes. Il permettra :
 - la lecture de divers types de textes
 - l'audition de documents sonores
 - une analyse de documents visuels
 - des discussions sur des sujets de société
 - des jeux de rôles
5. 学修の到達目標：A l'oral comme à l'écrit, le cours permettra :
 - d'enrichir le vocabulaire et de consolider la syntaxe
 - d'augmenter les capacités d'argumentation
 - d'améliorer les capacités de compréhensionLe cours aidera aussi à découvrir la vie quotidienne en Fr
6. Learning Goals (学修の到達目標)：A l'oral comme à l'écrit, le cours permettra :
 - d'enrichir le vocabulaire et de consolider la syntaxe
 - d'augmenter les capacités d'argumentation
 - d'améliorer les capacités de compréhensionLe cours aidera aussi à découvrir la vie quotidienne en France, ses codes et usages.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1) Expression orale et écrite
 - 2) Expression orale et écrite
 - 3) Expression orale et écrite
 - 4) Expression orale et écrite
 - 5) Expression orale et écrite
 - 6) Expression orale et écrite
 - 7) Expression orale et écrite
 - 8) Expression orale et écrite
 - 9) Expression orale et écrite
 - 10) Expression orale et écrite
 - 11) Expression orale et écrite
 - 12) Expression orale et écrite
 - 13) Expression orale et écrite
 - 14) Expression orale et écrite
 - 15) Expression orale et écrite
 - 16) Projection de film. Analyse et discussion
8. 成績評価方法：

Une participation à tous les cours est nécessaire. La participation à l'oral compte pour 50 %. L'évaluation sera aussi écrite (rédaction de plusieurs textes brefs).
9. 教科書および参考書：

Le manuel sera choisi en fonction du niveau des étudiants présents.
10. 授業時間外学習：Des exercices permettront de revoir du vocabulaire ou des points de grammaire. Il faudra aussi rédiger des textes brefs en relation avec l'objet du cours.
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：漢文講読／ Chinese Classics (Reading)

曜日・講時：前期 金曜日 4 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：田島 花野

コード：LB35404, 科目ナンバリング：LHM-LIT226J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：漢文訓読入門

2. Course Title (授業題目) : An introduction to reading classical Chinese texts in ancient Japanese.

3. 授業の目的と概要：この講義では、漢文の構造を体系的に理解し、漢文の読解力を向上させるために必要な文法に関する知識を習得することを目的とし、文型・句形・送り仮名などの性格、それら相互の関係、及び実際の用いられ方を学ぶ。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : This course deals with classical Chinese grammar. It also enhances the development of student's skills in reading classical Chinese texts in ancient Japanese.

5. 学修の到達目標：受講生は本講義を通して、教育現場や専門分野に応用し得る漢文訓読の基礎的な知識を習得できるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : Students will develop the abilities necessary in academic and academic activities, such as reading classical Chinese texts in ancient Japanese.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業の実施形態：対面授業のみ

[内容・方法]

唐代伝奇小説に関連するテキストを読解し、出席者とともにテキストの書き下し文と現代日本語訳の作り方を討論する。

[進度予定]

第 01 講 ガイダンス

第 02 講 唐代伝奇 (1)

第 03 講 唐代伝奇 (2)

第 04 講 唐代伝奇 (3)

第 05 講 唐代伝奇 (4)

第 06 講 唐代伝奇 (5)

第 07 講 唐代伝奇 (6)

第 08 講 唐代伝奇 (7)

第 09 講 唐代伝奇 (8)

第 10 講 唐代伝奇 (9)

第 11 講 唐代伝奇 (10)

第 12 講 唐代伝奇 (11)

第 13 講 唐代伝奇 (12)

第 14 講 唐代伝奇 (13)

第 15 講 期末試験

8. 成績評価方法：

出席状況 (50%)、期末試験 (50%)

9. 教科書および参考書：

教材は授業中に配布する。参考書は授業中に紹介する。

Texts are handed out at the beginning of the course.

10. 授業時間外学習：授業中に配布する教材について予習を行う。

Students are required to prepare a text.

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

オフィスアワーは中国語学中国文学研究室 (619) で毎週金曜日 14:10~14:40 とする。

Office hours are from 14:10 to 14:40 on Fridays at the Laboratory of Chinese Language and Literature, Room 619.

科目名：漢文講読／ Chinese Classics (Reading)

曜日・講時：後期 金曜日 4 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：田島 花野

コード：LB45404, 科目ナンバリング：LHM-LIT226J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：漢文訓読入門

2. Course Title (授業題目) : An introduction to reading classical Chinese texts in ancient Japanese.

3. 授業の目的と概要：この講義では、漢文の構造を体系的に理解し、漢文の読解力を向上させるために必要な文法に関する知識を習得することを目的とし、文型・句形・送り仮名などの性格、それら相互の関係、及び実際の用いられ方を学ぶ。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : This course deals with classical Chinese grammar. It also enhances the development of student's skills in reading classical Chinese texts in ancient Japanese.

5. 学修の到達目標：受講生は本講義を通して、教育現場や専門分野に応用し得る漢文訓読の基礎的な知識を習得できるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : Students will develop the abilities necessary in academic and academic activities, such as reading classical Chinese texts in ancient Japanese.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業の実施形態：対面授業のみ

[内容・方法]

唐代伝奇小説に関連するテキストを読解し、出席者とともにテキストの書き下し文と現代日本語訳の作り方を討論する。

[進度予定]

- 第 01 講 唐代伝奇 (14)
- 第 02 講 唐代伝奇 (15)
- 第 03 講 唐代伝奇 (16)
- 第 04 講 唐代伝奇 (17)
- 第 05 講 唐代伝奇 (18)
- 第 06 講 唐代伝奇 (19)
- 第 07 講 唐代伝奇 (20)
- 第 08 講 唐代伝奇 (21)
- 第 09 講 唐代伝奇 (22)
- 第 10 講 唐代伝奇 (23)
- 第 11 講 唐代伝奇 (24)
- 第 12 講 唐代伝奇 (25)
- 第 13 講 唐代伝奇 (26)
- 第 14 講 唐代伝奇 (27)
- 第 15 講 期末試験

8. 成績評価方法：

出席状況 (50%)、期末試験 (50%)

9. 教科書および参考書：

教材は授業中に配布する。参考書は授業中に紹介する。

Texts are handed out at the beginning of the course.

10. 授業時間外学習：授業中に配布する教材について予習を行う。

Students are required to prepare a text.

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

オフィスアワーは中国語学中国文学研究室 (619) で毎週金曜日 14:10~14:40 とする。

Office hours are from 14:10 to 14:40 on Fridays at the Laboratory of Chinese Language and Literature, Room 619.

科目名：人文社会科学特別講義／ Humanities and Social Sciences (Special lecture)

曜日・講時：前期集中

semester：集中 (6), 単位数：1

担当教員：Henrik Bogdan ヘンリック・ボグダン

講義コード：LB98802

科目ナンバリング： 使用言語：英語



1. 授業題目： Occultism and Modernity

2. Course Title (授業題目)： Occultism and Modernity

3. 授業の目的と概要 (Course Objectives and Course Description)：

The course will focus on modern forms of esotericism from 19th century Spiritualism and Theosophy to esoteric New Religious Movements such as the modern Witchcraft movement (Wicca), Satanism and the New Age Movement. More specifically, the course will consider how esoteric practitioners responded to major changes in religion and spirituality due to the processes of modernity and secularization. By the end of the course, students will understand the major theoretical approaches to the study of occultism and be familiar with several forms of modern esotericism. Teaching will take place through eight 90-minute seminars and introductory lectures. Lively discussions, while decent and respectful, are encouraged.

4. 学習の到達目標 (Learning Goals)：

After completion of the course, the students are expected to: 1) Be able to account for key theories about and definitions of Western esotericism; 2) Be able to account for the history of Western esotericism from the Nineteenth Century to late modern times; 3) Demonstrate the ability to analyze key aspects of Western esotericism from the Nineteenth Century to late modern times; 4) Critically be able to interpret and evaluate discourses about esotericism from the Nineteenth Century to late modern times

5. 授業の内容・方法と進度予定 (Course Content, Methods, and Course Schedule)：

PART 1 (June 13-June 22)

June 13, 13.00-14:30, Class 1, "Introduction"

Required reading: Hanegraaff, Wouter J., "Esotericism Theorized: The Beginning of the Study of Esotericism" in *Religion: Secret Religion* (Macmillan Reference, 2016), [15 pp].

Suggested readings:

Pasi, Marco: "The Modernity of Occultism: Reflections on Some Crucial Aspects" in Hanegraaff & Pijnenburg (eds.), *Hermes in the Academy* (Amsterdam University Press, 2009), [10 pp].

Pasi, Marco: "Esotericism Emergent: The Beginning of the Study of Esotericism in the Academy" in *Religion: Secret Religion* (Macmillan Reference, 2016), [11 pp].

June 15, 13.00-14:30, Class 2, "Freemasonry, secrecy, and initiation"

Required reading: Bogdan, Henrik & Snoek, Jan, "Freemasonry" in Christopher. Partridge, *The Occult World* (Routledge, 2015), [15pp].

Suggested Readings:

Bogdan, Henrik: "Esotericism Practiced: Ritual and Performance" in *Religion: Secret Religion* (Macmillan, 2016). [13 pp.]

Bogdan, Henrik: "Freemasonry and Western Esotericism" in Henrik Bogdan & Jan Snoek, *Handbook of Freemasonry* (Brill 2014), [26 pp].

June 20, 13.00-14:30, Class 3, "Spiritualism"

Required reading: Bogdan, Henrik, "Western Esotericism and New Religious Movements" in Lewis & Tøllefsen (eds.), *The Oxford Handbook of New Religious Movements* (Oxford University Press, 2016), [12 pp].

Suggested reading:

Gutierrez, Cathy: "Spiritualism" in Glenn Alexander Magee (ed.), *The Cambridge Handbook of Western Mysticism and Esotericism* (Cambridge University Press, 2016), [11 pp].

June 22, 13.00-14:30, Class 4, "Theosophy"

Required reading: Gomes, Michael, "H.P. Blavatsky and Theosophy" in Glenn Alexander Magee (ed.), *The Cambridge Handbook of Western Mysticism and Esotericism* (Cambridge University Press, 2016), [11 pp].

Suggested readings:

Hammer, Olav: "Theosophy" in Christopher Partridge, *The Occult World* (Routledge, 2015), [9 pp].

Partridge, Christopher: "Orientalism and the Occult" in Christopher Partridge, *The Occult World* (Routledge, 2015), [13 pp].

Tillett, Gregory: "Modern Western Magic and Theosophy" *Aries: Journal for the Study of Western Esotericism* 12:1 (2012), [36 pp].

PART 2 (July 6-18)

July 6, 13.00-14:30, Class 5, "The Occult Revival"

Required reading: McIntosh, Christopher: "Eliphas Lévi" in Christopher Partridge, *The Occult World* (Routledge, 2015), [11 pp].

Suggested readings:

Gilbert, Robert A., "The Hermetic Order of the Golden Dawn" in Christopher Partridge, *The Occult World* (Routledge, 2015), [9 pp].

Asprem, Egil: "The Society for Psychical Research", in Christopher Partridge, *The Occult World* (Routledge, 2015), [8 pp].

Johnston, Jay: "Gender and the Occult", in Christopher Partridge, *The Occult World* (Routledge, 2015), [10 pp].

July 11, 13.00-14:30, Class 6, "Aleister Crowley and Thelema"

Required reading: Bogdan, Henrik, "Aleister Crowley: A Prophet for the Modern Age" in Christopher Partridge, *The Occult World* (Routledge, 2015), [10 pp].

Suggested readings:

Pasi, Marco: "Varieties of Magical Experience: Aleister Crowley's Views on Occult Practice" *Magic, Ritual, and Witchcraft* (2011), [40 pp].

Asprem, Egil: "Magic Naturalized? Negotiating Science and Occult Experience in Aleister Crowley's Scientific Illuminism" *Aries: Journal for the Study of Western Esotericism* 8 (2008) [24 pp]

Hedenborg-White, Manon: "To Him the Winged Secret Flame, To Her the Stooping Starlight: The Social Construction of Gender in Contemporary Ordo Templi Orientis" *The Pomegranate* 15 (2013), [18 pp].

July 13, 13.00-14:30, Class 7, "Witchcraft and Satanism"

Required reading: Clifton, Chas: "Contemporary Paganism", in Glenn Alexander Magee (ed.), *The Cambridge Handbook of Western Mysticism and Esotericism* (Cambridge University Press, 2016), [10 pp].

Suggested readings:

White, Ethan Doyle: "The Creation of 'Traditional Witchcraft': Pagans, Luciferians, and the Quest for Esoteric Legitimacy" *Aries: Journal for the Study of Western Esotericism* 18 (2018) [29 pp].

Petersen, Jesper A.: "Modern Religious Satanism: A Negotiation of Tensions" in Lewis & Tøllefsen (eds.), *The Oxford Handbook of New Religious Movements* (Oxford University Press, 2016), [12 pp].

Petersen, Jesper A.: "The Seeds of Satan: Conceptions of Magic in Contemporary Satanism" *Aries: Journal for the Study of Western Esotericism* 12:1 (2012), [34 pp].

July 18, 13.00-14:30, Class 8, New Age and Occulture"

Required reading: Baker, Brian: "The Occult and Science Fiction/Fantasy" in Christopher Partridge, *The Occult World* (Routledge, 2015), [14 pp].

Suggested readings:

Bogdan, Henrik: "The Order of the Solar Temple" in James R. Lewis & Jesper Aa. Petersen (eds.), *Controversial New Religions* (OUP, 2014), [14 pp].

Hammer, Olav: "New Age", in Christopher Partridge, *The Occult World* (Routledge, 2015), [9 pp].

Huss, Boaz: "The New Age of Kabbalah" *Journal of Modern Jewish Studies* 6:2 (2007), [15 pp]

Partridge, Christopher: "Occulture and Everyday Enchantment" in Lewis & Tøllefsen (eds.), *The Oxford Handbook of New Religious Movements* (Oxford University Press, 2016), [14 pp.].

6. 成績評価方法 (Grading) :

Students are expected to participate in class and complete a final exam, which will include essay questions that cover the readings and discussions. Exam essays will require that you reflect on your position regarding various topics and also that you provide evidence and reasoned argument in support of that position. In these essays, I expect much more than summaries and unsubstantiated opinions.

7. 教科書および参考書 (Materials) :

The required readings will be available online as PDF files.

8. 授業時間外学習 (Out-of-hours learning) :

Students will be expected to read at least one academic article or book chapter per class; those are indicated in as "required readings" in the above class schedule. Students should also, as much as possible, try to finish the "suggested readings."

9. その他 (Others) :

Class Participation: This course requires active participation from all students. The class is organized around discussions of course materials (scholarly articles, etc.). Students are expected to study all materials BEFORE each class session and to participate in the discussion by sharing their reasoned views on the topic.

Honesty: Please pursue rigorous honesty in everything you do, including your work for this class. It will serve you well in life, and in this class as well since we report all cases of suspected academic dishonest to the head of the department.

Use of E-mail for Official Correspondence to Students: E-mail is recognized as an official mode of university correspondence; therefore, you are responsible for reading your e-mail for university and course-related information and announcements. You are responsible to keep the university informed about changes to your e-mail address. You should check your e-mail regularly and frequently—we recommend daily, but at minimum twice a week—to stay current with university-related communications, some of which may be time-critical.

Problems or Criticism: If you don't understand something about the course or if you have specific points of criticism, do not hesitate to get in contact with me directly. If I don't hear about the problems, I have no chance of addressing them.